

～共感する～

symPaThy

Miyazaki Physical Therapy Association

VOL. 11

Contents

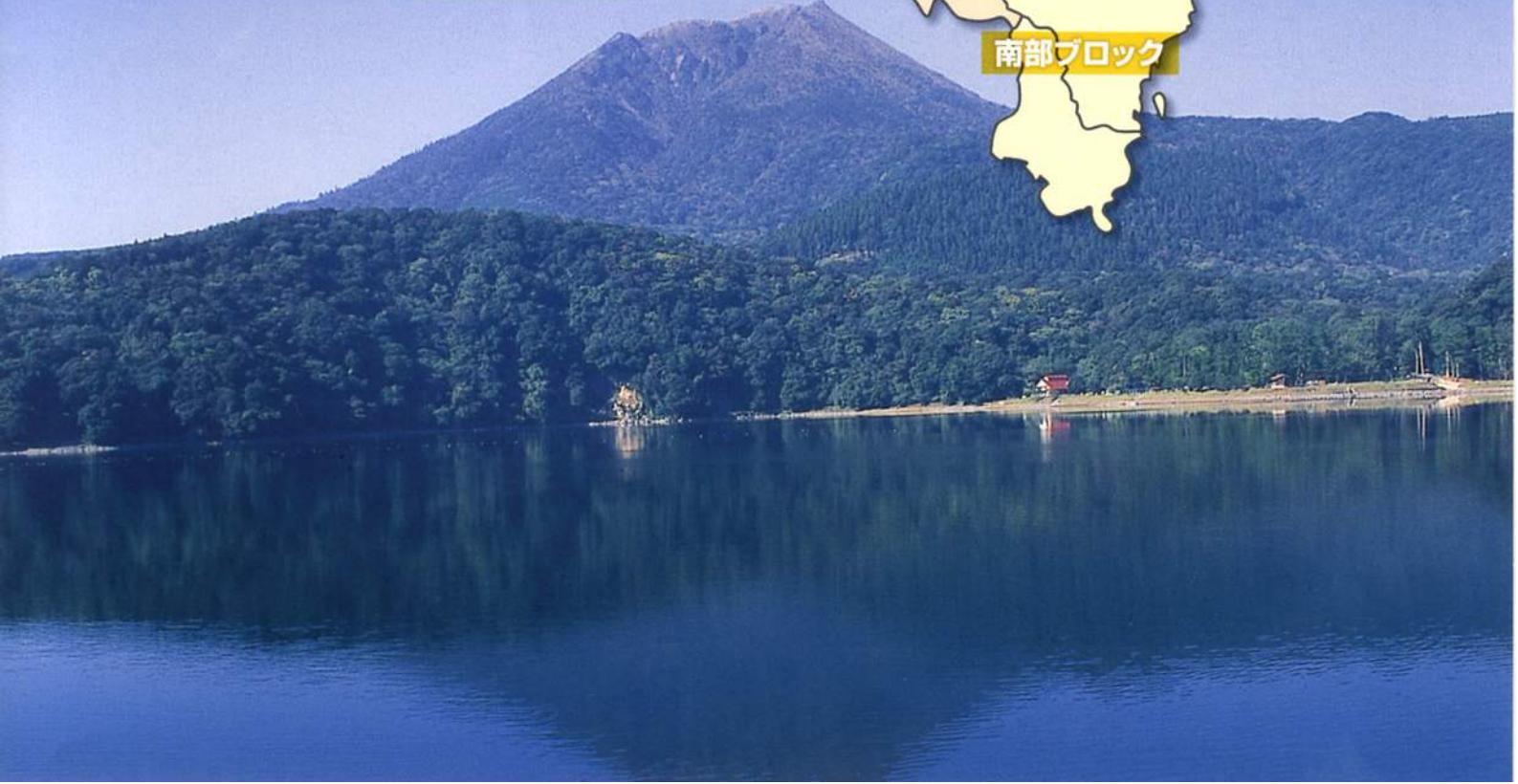
① 第20回 宮崎県理学療法学会



② PTの現場



③ 生涯学習委員会 研修リポート



第20回宮崎県理学療法学会

～宮崎県理学療法学会を終えて～

学会を終えて

第20回 学会長 清水 秀一(小林市立病院)

2013年(平成25年)12月1日(日)に、高原町総合福祉センターほほえみ館神武ホールを会場に、メインテーマを「自分の未来が見えますか?～今、自分にできること～」として、宮崎県理学療法学会が西諸ブロック担当で行われました。

今大会は、宮崎県理学療法士会として20回という節目となりました。これまで県内・外の理学療法発展に取り組んでこられた方々への感謝の気持ちや、これから未来に向けて更なる発展のために気持ちを新たにするという意気込みを持って準備してきました。不慣れなことばかりで十分に皆様を「お・も・て・な・し」できたかは分かりませんが、ブロック会員が団結して開催できたと思います。

さて学会は1日開催となりましたが、参加者数204名(県外参加者2名含む)となり、西諸で開催された学会では過去最高の参加数となりました。開催地条件としてはあまり恵まれておらず、2桁数の参加ではと危ぶまれていましたが、ここまで多くの参加数が得られたことは大変喜ばしく思います。

今回、日本理学療法士協会副会長(名古屋大学大学院)の内山靖先生をお招きし、「理学療法士としてのキャリアとプロフェッショナリズム」という演題でご講演いただきました。メインテーマともリンクし、今後の理学療法に関わる上で貴重な講演となりました。

演題発表においては、14演題のエントリーがあり、会場において質の高い発表と意見交換がなされました。また、厳正な査読と発表内容から「県士会長賞」「フレッシュマン賞」を選定させていただきました。

今学会を開催するにあたり、西諸ブロックの団結力を見ることができました。ほんの数年前までは20人~30人規模で各施設1名勤務の状況が多かったのですが、近年会員数が60名を超え、その中でも新人(経験5年未満の方)が多くなり、年齢を越えた交流が必要となっていました。学会の準備・開催がこれほど効果的に作用してくれたことは、今後の西諸ブロックにおける理学療法発展は間違いないと確信しています。これを機に更なるステップアップを目指して日々精進していこうと考えております。





学会を終えて

準備委員長 米吉 真弓(池田病院)

平成25年12月1日に開催されました、第20回宮崎県理学療法学会には、200名を超える多くの方にご参加いただき誠にありがとうございました。ご尽力いただきました皆様のご理解とご協力のお蔭をもちまして無事、滞りなく終了を迎えることができましたことを、お礼申し上げます。経験、情報、知識を共有化する場として、皆様にとって有益な機会となりましたなら幸甚に存じます。

私は準備委員長として携わらせて頂きました。学会運営に携わるのは初めてにもかかわらず、大役を拝命し、その重責に不安とプレッシャーの毎日でした。手探りでの準備・運営で、至らない点も多かったのですが、西諸ブロック会員・県士会スタッフの皆様のお力添えにより、やり遂げることができたと唯々感謝するばかりです。

また、西諸ブロックでは、ほとんどのスタッフに協力をもらい、ブロック一丸となって運営を行いましたので、今学会を通して、ブロック会員の繋がりが深まったことも喜ばしい事態でした。

今回、学会運営に携わらせて頂いたことで、これまでの学会を運営された方々、県士会スタッフのご苦労をわずかながら知ることができ、感謝を深めております。

今回の経験を活かし、自分の未来、理学療法の未来を見据えながら、今後の臨床業務や県士会・ブロックの業務を精進して参りたいと思います。

今回の学会運営にお力添え頂いた皆様、本当にありがとうございました。



参加印象記

岩永 克希(野尻中央病院)

初めての学会参加と同時に準備にも携わる事ができました。準備しているうちに、西諸ブロック会員の方々と多くの交流を持つことができ、ブロック内が一つになれたと実感しています。今回、200人を超える多くの参加者がいたことに、とても感激しています。

今回のテーマは『自分の未来が見えますか?~今、自分に出来ること~』ということでした。中でも、内山靖先生の特別公演の話がとても印象的でした。日々現場では、多くの方々が、理学療法士にしか出来ない事をしながら、自分にも出来る事にも多くの労力を注ぎ込んでいらっしゃるのではないかと思います。“一人の専門職”としてだけでなく、“一人の人”として働くということがどういうことなのか悩んでいた私にとって、内山先生の言う“スペシャリスト(自分の技術を活かし治療する者)”とは何なのか? “プロフェッショナル(複雑なケースにも対応できる者)”とは何なのか?という話は、自分自身の未来を考える良い機会になりました。

自分の未来を模索しながら、“今、自分に出来ることは何なのか?”具体的な行動を起こさないといけないと強く感じました。



参加印象記

岩元 克史(介護老人保健施設さくら苑)

これまで、県学会に参加したことはありました。運営委員としての学会参加は初めての経験で、私は会場設営を中心に準備に携わりました。業務内容としては、講師の先生を含め演者が講演・発表しやすく、また参加者が視聴しやすいように試行錯誤しながら会場を設営しました。慣れないことで色々と大変な面はありました。しかし、設営スタッフはもちろん、学会長・準備委員長をはじめとする他の運営スタッフからの助言や協力・連携があったからこそ当日の学会をスムーズに進行する事ができ、無事に成功できたと感じます。次回、西諸プロックで県学会を開催する際は、今回の自分の反省点を活かしながらより良い学会が開催出来る様に取り組んでいきたいです。

西諸プロックのPTが合同で集まって1つの仕事を全うする機会は、なかなかないことで本当に良い経験となりました。この学会で生まれた繋がりをより強固なものとし、プロックでの活動や業務に励んでいきたいと思います。

最後になりますが、関係スタッフ・参加して頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



参加印象記

山下 優希(小林市立病院)

今回、今年学生を卒業し社会人一年目という中で学会の代表プロックの一員として参加させていただきました。学会には今まで参加したことがなかったため、どのようなものなのか把握できず、不安な点が多くありました。

しかし、上司の方々の的確な指導により、新人の私達でもスムーズに動くことができ、無事成功することができたことをとても嬉しく思います。

また、貴重な内山先生の講演も傾聴することができ、今後の理学療法について深く考えさせられました。今回のテーマにあるように自分にできることを考えながら、日々精進していきたいです。同世代の方々の症例発表などを聞き、自身の未熟さと新たな知識を得ることができました。機会があれば積極的に発表させて頂き、自分のスキルアップに繋げていきたいです。





参加印象記

江藤 夕姫(整形外科前原病院)

12月1日、私は初めて学会運営のスタッフとして活動するにあたりやや緊張気味に当日を迎えました。この日の気温は最高15度、最低5度と11月下旬から徐々に低下してきた折れ線グラフの丁度谷間にあたる日で、更に若干の曇り空も相まって随分と冷え込んだように感じられました。当日の気温の低さは予測出来たので寒さ対策をして臨みましたが、それでも当然出入りが多く暖房の効かないホールは非常に寒く、洗面台の鏡で見た自分の顔があまりに蒼白で驚いた程です。

受付として任せて頂いた作業は会員カードの読み込みと会計でしたが、受付開始直後は来場される方々が最も多く、PC処理に不慣れで躊躇する事もあり周囲に尋ねながらの開始となりました。そんな中、来場者の中に母校の先生方のお顔や先輩方、同期、後輩の元気そうな様子を見て、また運営を引っ張って下さる先輩の方の姿にも後押しされて中盤以降は余裕をもって取り組み、無事に業務を終えた時はようやく安心したのを覚えています。

今回学会の開催に関して事前準備から当日までの過程を通して西諸プロック各施設のスタッフとの交流が増え、私自身、今後より良く充実した関わりの場を作つて頂けたと思っています。・

～内山先生を囲む会報告～

西諸プロック長 村上 俊一(えびの市立病院)

11月30日(土)19:30より小林市内の日本料理店にて行いました。

会長をはじめ理事、各部長の多くの先生方にご参加いただき、総勢35名の会となりました。

内山先生も当初、数名でのささやかな会と思っていたようで、予想以上の歓迎に驚かれた様子でした。過密スケジュールの中でのご来県の上、到着して間もなくの開会ではありましたが、お疲れの様子もなく、協会事情からプライベートな話まで幅広いお話を聞くことが出来ました。また、先生は普段はあまり飲まれない様でしたが、和やかな場の空気もあってか焼酎のお湯割りを幾度とおかわりされていたのが思い出されます。参加された先生方もまたとない機会とあって積極的に先生との時間を持たれていました。二次会以降も多くの方に小林の夜を満喫して頂き、学会前夜祭をおおいに盛り上げて頂きました。

最後になりますが、この度は大変お忙しい最中にもかかわらず多くの先生方にご参加頂きまして誠に有難うございました。ご協力頂きましたこと深く感謝申し上げます。





PTの現場

宮崎県内のリハビリテーションの現場で、理学療法士として特化した仕事をされている皆さんにお話を聞きしています。今回は、行政機関にてリハビリテーションに日々取り組まれている、宮崎県身体障害者相談センターの古川勝政さんをお尋ねし、お話を伺いました。



Q1 古川さんが相談センターで働くようになったきっかけはどうでしょうか？

昭和63年に宮崎リハビリテーション学院を卒業しました。その後2ヶ月位前に宮崎県職員採用の内定通知を受けていましたが、4月ぎりぎりまで、どこに配属になるかは、教えてもらえませんでした。卒業した同期の方々が全て就職された頃に子ども療育センター勤務との知らせがあり、非常に驚いたことを今でも驚いています。それは、まさか自分が小児リハを行うことになるとは夢にも思っていなかったからです。結局、15年間こども療育センターに勤務ましたが、振り返れば、この15年間が今の私の土台になったと思います。障がい児のリハビリを行う中で治療手技はもちろんのこと、ご両親とセラピストの人間関係の構築の大切さ、成長に応じたご助言の必要性など幅広い知識が求められ、勉強の大切さを感じました。そこで、あまり知識のなかった福祉サービスの知識を自己啓発として学ぶうちに行政の仕事にも関心を持つようになりました。そして、平成15年初めての異動が身体障害者相談センター（更生相談所）になりました。その後、県立延岡病院異動を経て、平成22年から現職場へ再度異動となり、現在に至っています。

Q2 古川さんの日常の仕事内容とそれを継続していく上での秘訣を教えてください。

障害者総合支援法に基づく補装具の判定に係わっています。具体的に説明すると身体障害者手帳を所持されておられる障がいの方が日常的に使用されている義肢、器具、車椅子、坐位保持装置などの補装具について、判定までに市町村との調整と判定をして頂く判定医の先生への判定経緯などご説明などを行っています。（平成24年4月から難病の方も補装具の支給対象となりました。一部申請手続きが異なりますので詳細は身体障害者相談センターか市町村福祉課窓口にお

聞きください）

次に身体障害者相談センターで判定した補装具の適合判定を実施しています。適合判定とは、判定書に基づき、補装具処方箋どおりに製作されているか、身体的に問題なく使用されているかなどの検査の事です。

また、地域リハビリテーション推進事業として、宮崎県内の福祉作業所、福祉施設などに出向きADL指導や補装具相談等を行っております。北は延岡、南は串間、西は小林と全県下を飛び回っています。最近、事業所が増加傾向にあり、新しいところからもお声が掛かることが増えています。

その他の業務として市町村、補装具製作業者、医療関係者などへの研修と市町村への技術的な助言等も行っています。

仕事を継続していく秘訣は申請者の方の意見を真摯に聞くように心掛けています。次に補装具製作業者、市町村との共通認識のもと判定を進めて行くように心がけています。また、判定がうまく進まなかった例を構築し、問題点を整理し、次の判定に生かすようにしています。書面の内容だけでなく、よりできるだけ人との関わりを大切にしています。それから、長年仕事を続けていると家族の事やいろいろ悩む事がありますが、一旦仕事にかかったらリセットして業務中は無心になるよう心がけています。

Q3 病院等で働く理学療法士の業務と現在の業務との違いは何でしょうか？また、共通点は？



違いを感じる点は、大きく2つあります。1つは、対象となる方との関わる時間でしょうか。病院勤務の場合、ある程度の時間や期間、継続して関わることになります。特に療育センターでは、対象児の成長過程の長い期間を共に過ごすこともあります。現職では、対象者の方とお会いする機会は殆どの場合1~2回程度であり、時間的にも限られます。2つ目は、対象者に関わる時期の違いだと思います。概ね障害状況が安定した方や場合によっては病院等でのリハビリテーションが終了されている方が判定や当センターでのサービスを利用されます。国の指針をもとに説明するなら、これから治療用で用いる補装具やリハ目的で使用する補装具は該当しません。要するに日常的に使用する装具で障害を補完するためのもの、申請者の方の生活場面や就労場面を重視するという考え方からきています。その為、殆どすべての利用者の方は、PTの先生方が急性期から回復期、維持期と一緒に理学療法等を施行された方が対象となります。

共通点は土台となるPTとしての知識と経験及び人と人との繋がりだと思います。病院や施設で行うチームアプローチとは少し異なるかもしれません、行政でも同じように申請者、市町村、製作業者と連携を取らなければなりません。当たり前のことですが共通認識で事を進める事はそれぞの立場が異なるためかなりの労力を必要とすることもあります。地道な作業ですが、全ての関連職種で連携が取れてないと業務がうまく進みません。病院や施設等で働くPTの先生方も同じではないかと思います。

Q4 やりがいを感じる時は、どのような時ですか？

行政の中での理学療法士は周りからみると堅苦しかったり、仕事をやりにくそうな印象を持たれるかもしれません。しかし、決してそうではありません。確かに、国の研修会等を受講したら、市町村へ伝達したり、制度が変わったら施行日より不安を抱えたまま業務を行なわないといけない状況があり、非常に重圧はありますが同時にやりがい



宮崎リハビリ最前線 行政機関の現場から

も感じます。実際、前回の異動の時には、身体障害者福祉法に基づいた業務から障害者自立支援法に変わり、今回の異動の時には障害者自立支援法から障害者総合支援法へと変わる時期であったため、制度の流れも把握することができ、今の業務を遂行するのに非常に役立っていますし、多少ですが自信にもなっています。

チームとしてやりがいや達成感を感じることは、私自身が関わった節目、節目の研修会や大きな会議などが無事に終わった時です。

セラピスト個人としてやりがいを感じることは、自分が判断に関わった義肢・装具、車椅子などが適合検査(納品時の検査)が無事終わり、申請者の方が喜んで下さった時です。感謝の気持ちひとつでまた“頑張らないといけないなあ”とあまり若くない自分を奮い立たせています。

Q5 古川さんにとって理学療法とは?そして後輩理学療法士に一言お願いします。



私にとって理学療法とは日々進化し続けるもの、昭和の時代からPTをしていますが昔は今のような理学療法士の知名度こそありませんでしたが、理学療法士一人一人の存在価値は非常にありました。今は存在価値のある理学療法士になるためには人とは異なる、何かに秀でたものが必要ではないかと思います。

私もこれまで、突っ走って失敗しそうになる事がたくさんありました。時には失敗したこともあります。しかし、頑張って突っ走った分、得るものがあります。私も今年50歳になりますがたま

に人生を振り返ることがあります。人生を振り返る時が来たとき良い思い出がたくさんあるようにしてください。こんな事を言い出したらもう年ですね。

最後にお願いがあります。身体障害者相談センターで判定する補装具は全て国の基準に基づくものです。そのため、判定する前段階で申請する補装具が決定していないといけません。細かいことで恐縮ですが例を挙げるとプラスチックス短下肢装具の判定後にタマラック足継手が欲しいと要望があつても医学的判定が終わった後ではどうすることもできません。もし、身体障害者相談センターで判定をされる患者様や利用者様がいらしたら、判定前までに適切なご助言をよろしくお願いします。何かお分かりにならないことがありましたら、身体障害者相談センターの古川までご連絡ください。

Q6 古川さんが今熱中している事はなんですか?



書道と言いたいところですが、ペン字にはまっています。きっかけは、私は字が非常に下手だったことです。そのため、子供たち3人には小学生のころから、書道を習わせていました。我が子が成長するとともに字が変わっていくのを見て私も習ってみようと思いました。次男は中2で初等科免許、妻は正師範の免許を持っています。私はとうてい次男にも追いつけそうにありませんが、まずはペン字から習い始めました。1週間に一回のペースで家族一緒に書道教室に通っています。学生さんやいろいろな年齢層の中で無心に練習しているところが洗われます。時々、(このおじさん何でここに

来ているのだろう?)という小・中学生たちの視線を感じることがあります(笑)。

Q7 最後に、仕事と家庭を両立させる秘訣を教えてください。

家族構成はOTである妻と昨年から他県の病院にSTとして努めている長男、高校生の長女、中学2年の次男の5人家族です。

かねてから毎日、少しでも家族一人一人と接するように心掛けています。子どもたちの会話に出てくる友達の名前は殆どわかります。これまで子どもたちの反抗期なども含め絶余曲折ありました。今ではお互い理解し合えることも増え、特に長男とは、社会人同士として、時にはリハビリテーションに関わるもの同士として話をすることができるようになりました。年月を経るにつれ、家族との関わり方が変化していくのも楽しみですね。そして、妻への感謝を忘れないことと、協力できることは空気のように動く(笑)ことです。料理も好きなのでよく週末には夕食も作ります。もちろん、買い出しから片付けまでです。子供たちも成長期でよく食べてくれるので作り甲斐があります。本来釣りが好きなので時間があれば海から食材を調達したいところです。

宮崎県身体障害者相談センター

古川勝政さんプロフィール

略歴

1964年 宮崎市に生まれる。
1988年 理学療法士免許取得
1988年 宮崎県に入庁
1988年 宮崎県立こども療育センターに赴任
2003年 宮崎県立身体障害者相談センターに異動
2007年 宮崎県立延岡病院に異動
2010年より宮崎県身体障害者相談センターに勤務

役職:主査

資格等

2001年教養学士取得
2002年保健衛生学士取得

平成25年度 運動器理学療法研究部会 報告

テーマ：「運動器理学療法を発展させるための評価力と創造力」

日 時：平成25年10月6日（日）

会 場：宮崎医療福祉専門学校 合同講義室

講 師：石田 康行 先生（宮崎大学医学部付属病院 整形外科 医師）

森口 晃一 先生（恩賜財団済生会八幡総合病院リハビリテーション科）

症例発表者：水浦 穀彦 氏（社会保険宮崎江南病院リハビリテーション部）

田中 健太 氏（藤元総合病院セラピスト室）

馬場 功時 氏（野尻中央病院リハビリテーション科）

参 加 者：61名

平成25年度の当部会第1回研修会を上記にて開催いたしました。

今回は、講習会と症例発表会を合わせた研修会となりました。初めての企画でしたが、61名の参加をいただくことができました。

石田先生は肩関節の関節鏡視下手術や上肢スポーツ傷害の診療に精通されております。ご講演では、「助けてください」の言葉をスタートに、リハビリテーションにおける理学療法への期待や、理学療法士との関係性について述べていただきました。「理学療法士でダメなら手術」という言葉に、身の引き締まる思いと、「理学療法士が必要です。一緒に患者様を治しましょう」と直接話をしてくれる先生の情熱に大変ありがとうございました。

森口先生は膝関節疾患の理学療法を中心に臨床、研究の現場をご活躍しております。ご講演では、膝関節の障害に対する考え方を、解剖、機能、評価を中心にご自身の経験や研究で得られた知識や知恵を、講義や実技を通して分かりやすく説明していただきました。

さらに、当県士会会員の3名の方による症例発表を、2名の講師に参加いただいて行いました。日頃の臨床での取り組みや疑問の一端を共有し、お互いの今後の臨床にいかせられるような議論が繰り広げられました。発表者3名の方々は、「貴重なご意見をいただくことができ、大変ありがとうございました。またこういう機会があれば是非参加させてください。」と感想を述べておられました。

当研究部会では、臨床をよりよいものにしていくために、研修会だけではなく、学術的活動として症例検討会を企画していきたいと考えておりますので、機会があればぜひ参加していただきたいと思います。



運動器理学療法研究部会 部長 矢野 剛士

平成25年度 基礎理学療法研究部会 報告

テーマ：「運動器系理学療法における最新の知見とその臨床応用」

講 師：京都大学大学院 医学研究科 市橋 則明 先生

日 時：平成25年8月25日（日）

会 場：藤元総合病院 ローズホール

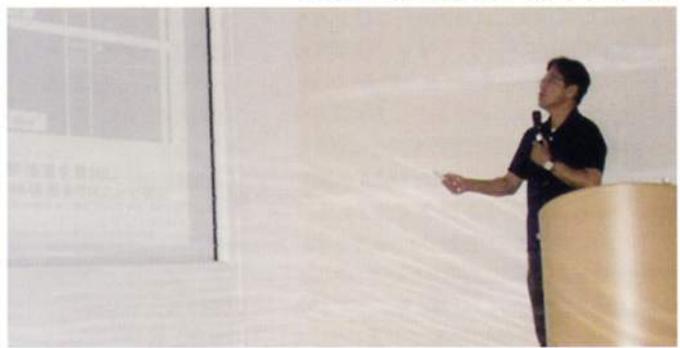
受講者数：51名

平成25年度基礎理学療法研究部会の研修会は、京都大学の市橋先生をお招きし51名の会員の参加を頂き、藤元総合病院で開催いたしました。市橋先生は、臨床バイオメカニクス研究室を立ちあげられており、人の動きを光学式・磁気式モーションキャプチャシステムや床反力計、筋電図、超音波診断装置など様々な計測機器を使用し、非侵襲的に測定・分析することで、リハビリテーションや理学療法の発展に寄与することを目的に研究されています。

研修会の内容は、運動器系理学療法における最新の知見とその臨床応用についてご講演頂きました。解剖学的な筋の起始停止や作用のお話から、ストレッチングの種類や方法による効果の違い、効果的な筋力トレーニング方法など、日々の臨床でなにげなく行われている理学療法（ストレッチ、筋力トレーニング等）を再度見つめなおす良い機会となりました。また、解剖学だけでなく力学的な観点から理学療法を構築していく必要性があることを教えていただきました。

今後も当部会では、最先端の基礎研究に関する分野や解剖・生理・力学等に関する分野の研修会を開催し、科学的な根拠に基づく理学療法を提供できるよう取り組んでいきたいと思います。

基礎理学療法研究部会 部長 貴嶋 芳文



平成25年度 内部障害理学療法研究部会勉強会 報告

テーマ1：呼吸理学療法勉強会（基礎編）

- ①呼吸理学療法概論 ②呼吸器・循環器の解剖学・生理学
- ③呼吸器疾患における運動学・フィジカルアセスメント ④胸部X線画像の評価

講 師：①田村 幸嗣 氏、②猪崎 茜 氏、花田 智 氏、③荒武 志帆 氏、④財津 由忠 氏
期 日：平成25年6月16日 参加者：27名

テーマ2：循環器理学療法勉強会（基礎編）

- ①心臓リハビリテーション概論/慢性心不全の病態・評価 ②心電図（ペースメーカー含む）
- ③慢性心不全患者に対する理学療法の評価 ④慢性心不全患者に対する運動療法の実際

講 師：①浅畠 知也 氏、②戸高 幹生 氏、③新地 達哉 氏、④花田 智 氏
期 日：平成25年7月21日 参加者：27名

テーマ3：呼吸理学療法勉強会（臨床編）

- ①呼吸理学療法におけるリスク管理
- ②急性期の呼吸理学療法
- ③慢性期の呼吸理学療法・ADL指導
- ④症例検討（ワークショップ）

講 師：①吉田 裕一郎 氏、②河野 芳廣 氏、③三輪 祥貴 氏
期 日：平成25年9月1日 参加者：16名

会 場：いざれも宮崎善仁会病院総合リハビリテーションセンター

当部会では平成22年度から当部会員が講師となって少人数の勉強会を開催しています。4年目となる今年度は基礎編と臨床編に分けて計12コマ開催しました。また新しい試みとしてワークショップを企画しました。参加者6名でグループを作り提示された重症症例の病態を理解し「起こすリスクと起こさないリスク」について話し合いました。参加者の経験年数は様々でしたが、どのグループも活発な意見が出て議論が盛り上がり、関心の高さが伺えました。

今後も皆様の意見を頂戴しながら、より充実した研修会を企画していくので、他職種の方も含め多くの参加をお待ちしています。



内部障害理学療法研究部会 部長 田村 幸嗣

平成25年度 物理療法研究部会 報告

物理療法研究部会では、今年度2回の研修会を実施いたしました。第1回研修会では、神戸学院大学の杉元 雅晴先生をお招きし、【物理療法の臨床応用】というテーマで研修会を開催いたしました。27名の参加者で物理療法を用いての臨床介入に関する適応・禁忌から、褥瘡に関する物理療法介入について実技・講義をしていただきました。褥瘡という病態に理学療法士として関わるうえで、予防的な介入だけではなく、電気治療を用いた治癒促進という新たな介入方法について講義していました。

第2回研修会では、「電気使い師」として西大和リハビリテーション病院の生野 公貴先生をお招きし、28名の参加者へ【脳卒中片麻痺症例への電気刺激療法によるニューロリハビリテーション—理論と実践—】とい

うテーマで、脳の可塑性変化から電気刺激療法を用いた理学療法展開まで最新の知見で講義していただきました。また、実技を通して電気刺激療法の基礎から脳卒中片麻痺症例に対する応用まで、ご指導いただきました。

2回の研修会を通して、物理療法介入に対する可能性と効果を実感することができました。

来年度も2回の研修会を企画しています。理学療法を展開するうえで、有効な手段としての物理療法介入へつながるような研修会を企画していますので、皆様ぜひご参加ください。

物理療法研究部会 部長 中原 寿志



平成25年度 生活環境支援理学療法研究部会 報告

テーマ：「生活のための福祉用具の選定・調整・指導について
～生活に視点をおいたりハビリテーション～

講 師：医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理学療法士 竹内 瞳雄 先生
期 間：平成25年6月23日（日）

会 場：宮崎リハビリテーション学院
受講者数：49名

平成25年度生活環境支援理学療法研究部会の研修会は、熊本機能病院の竹内瞳雄先生をお招きし宮崎リハビリテーション学院で、会員49名の参加を頂き開催いたしました。

研修会の内容は「生活のための福祉用具の選定・調整・指導について」という題目で①生活期リハビリテーションの視点②福祉用具の選び方・考え方③各種福祉用具についてご講演頂きました。福祉用具を導入し活用するプロセスには「出会い・獲得・習得・納得」の4つがあり、必要性の判断や効果の予測、本人および生活を支えている他スタッフの使いこなしへの配慮、そして福祉用具を使用することが生活の一部になるまで、そしてその後も評価していくことが大切だと講演の中にありました。福祉用具は在宅復帰の支援に欠かせないものであり選定する機会は多いです。しかし福祉用具を実際の生活に取り組むのは難しく、私を含め悩んでいる方も多いと思います。今回の研修はこうした悩みを解決する手助けになるのではないかと思います。

これからも生活環境支援理学療法研究部会では生活に視点を置いた様々な研修会を企画しております。会員の皆様には当部会へのご意見当もお寄せ頂きながら、今後も当部会活動へのご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

生活環境支援理学療法研究部会 山田 将幸



平成25年度 生涯学習委員会研修部研修会 報告

当部会では、本年度は9回の研修会を実施しました。今回は、新人教育プログラムについて報告いたします。本年度は、北部ブロック、県央ブロック、都城ブロックの3会場で開催し、延べ298名の参加がありました。来年度も3ブロック（北部ブロック、県央ブロック、西諸ブロック）での開催を予定しています。未修得の方はぜひご参加ください。

さて、日本理学療法士協会では、会員の知識・技術・資質の一層の向上、ならびに国民の保険・医療・リハビリテーションの向上に努めるべく、卒後からの系統的な生涯教育の一環とすることを目的に、「生涯学習システム」を立ち上げ、その時代に沿った新人教育プログラムテーマ

編成を5年ごとに見直しを行っており、平成24年4月には新人教育プログラムの内容を抜本的に見直し、運用をしています。見直しについては、標準化を一つのテーマとして、都道府県士会共通の内容として士会員の質の保証を意識しております。単一士会だけでなく、ブロック・協会として新人教育に取り組んでいる姿勢を社会的にも認知される必要があるかと思います。

今後も会員の皆様には、当部会活動へのご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

生涯学習委員会 研修部 田上 茂雄

みやざき 健康ふくしまつり2013 活動報告

平成25年11月3日、フローランテ宮崎にて、宮崎市主催の「みやざき健康ふくしまつり2013」が開催されました。当日はあいにくの悪天候でしたが、約9400人の方がご来場され、82の福祉・保健団体のブースやステージイベントを楽しんでいました。

宮崎県理学療法士会として、宮崎市郡ブロックから19名、宮崎医療福祉専門学校理学療法学科の学生2名の協力員が参加し、バランスボールの体験コーナー、射的、バルーンアートのコーナーを設置しました。バランスボール体験では、直接ボールに触れたり上に乗ったりと、参加した子どもさんも楽しめるように工夫しました。バルーンアートのコーナーでは、風船を用いて動物などを作り、無料で来場者に配ると同時にリハビリテーションについての質問などにも対応しました。理学療法士の名称は知っていても、実際にどのような仕事をしているのかなど知らない方が多くいらっしゃいました。

多くの来場者の方々に体験していただき、理学療法士を知つてもう良い機会になったと思います。毎年、まずは興味を持ってもらえるよう県民の皆さんにアピールしていくと、趣向を凝らしながら参加しています。

今後も宮崎県理学療法士会の一員として、理学療法士の啓発活動に取り組んでいきたいと思います。

のざきクリニック 清水 岬



宮崎県理学療法士会ホームページ

<http://www.miyazaki-pt.com>

宮崎県理学療法士会 

新着情報や学会のお知らせなど役立つ情報満載!!
是非、お役立て下さい。



The screenshot shows the official website of the Miyazaki Physical Therapy Association. At the top, there is a logo of two stylized figures and the text "宮崎県理学療法士会 Miyazaki Physical Therapy Association All right reserved.". Below the logo are five navigation buttons: HOME, 一般の方 (General), 会員の方 (Member), 関連リンク (Related Links), and お問い合わせ (Contact). A main banner features a horse and Moai statues with the text "このサイトでは、三島理学療法士会の活動や理学療法に関する情報を掲載しています。". On the left side, there is a sidebar with links for About (President Message, What is a PT, etc.), Members (General Information, Member Information, Related Links), Information (Newspaper Information, Seminar Information, etc.), and Contact. The main content area contains several news items with dates and titles, such as "H26.1.17 宮崎県理学療法士会新年会を開催しました。" and "H26.1.10 年始恒例の新年会を開催いたしました。". There are also sections for "会員の方へ (部会・委員会からのお知らせ)" and "新人研修のご案内" with specific details about seminars and programs.

編集後記

今回行われた「第20回宮崎県理学療法学会」では、西諸プロックの皆さんの团结により、盛況のうちに学会を終えることが出来たと思います。だんだんに県内の会員同士の繋がりが強くなっているように感じられ、大変嬉しく思います。今年は、4月の消費税増税や診療報酬改定が行われるため、慌ただしい年になりそうですが、会員同士、互いに協力し情報交換することで、円滑な業務進行が出来る事を願ってやみません。今年の干支である「牛年」に因んで、皆さんの今年1年が、「うま」くいきますように…。